

老朽化した社会資本の 点検・補修は 維持管理の手法を 調査・検討し計画を作成

相原 孝彦 議員

問 築40年以上経過した建物、橋梁の点検・補修対策は。

答 村が管理する建物は財産台帳で整理されており、築40年以上の建物は、みどり団地集会所、旧一高一本木校舎などです。

村は、施設や設備の損傷・劣化等を予測し、管理運営の費用対効果を分析し、効果的かつ効率的に維持管理する手法の調査、検討を進めます。

また、村が管理する橋梁106橋は22年度点検調査を実施し、23年度には、橋長15m以上の24橋について「橋梁長寿命化計画」を策定しました。

過した高齢橋梁や損傷が著しい橋梁は認められず、地震に対する抵抗性の指標から、跨線橋、跨道橋を優先に補修を進めています。

保育園の補修・建て替えの計画は

問 村内の小中学校校舎の耐震化は全て終了したが、保育園の補修・建て替え計画は。

答 大沢保育園は、昭和42年に建築されており、保育協会では25年3月頃に建設着手、8月末か9月の完成をめざし同園の改築を予定しています。

村内保育所で昭和50年以前に建築された保育所は、他に7か所あり、川前保育園、一本木保育園、柳沢保育園は、23年度に耐震診断を実施し、問題は認められませんでした。

また、ふうりん保育園、鶴飼保育園、元村保育園及び巣子保育園は、24年度中に耐震診断を行います。

「通学路の交通安全確保」の計画は

問 「通学路の交通安全確保」の計画は。

答 6月に国から「通学路における緊急合同点検」の依頼があり、8月に取りまとめた結果は、危険箇所数がか所でした。

教育委員会は、各学校での交通安全教室の開催や、避難訓練の実施を通して、子ども自身に危険を予測し、危険を回避する能力を培うよう「実践的な安全教育」を推進します。

総務常任委員会 調査活動報告

調査日／平成24年5月9日(水)
8月3日(金)
調査事項／市制に向けての住所の表記について
役場 企画総務課(市制準備室) 財務課

委員長 男鬼 初彦 熊谷 秀彦 遠藤 孝彦 相原 美喜子 佐藤 博義 高橋 桜井 高橋

市制に向けての住所の表記について

住所の表示方法については、検討されているとおり、基本的に最大限簡素化を図ることが望ましいと思われる。その上で、アンケートの結果や、地域の歴史的背景、また、長年愛着を持って住んできたという住民の声も考慮し、大字名称(滝沢以外)は残る形で住所を簡素化することが、望ましい形であると考えます。

一方、小字については、面積等も考慮して併合・分割することも検討する必要があり、特に変更を希望する地域などについては、更に住民との説明会、懇談会等を開催し多くの意見を取り込み検討できる環境づくりが重要である。村ホームページで「小字に関するアンケート」を行ってみるのも良いのではないかと考える。

新市の名称については、明治22年の町村制から123年間にわたる村民は皆、誇りを持ち歴史を積み重ねて来た。平成14年以降は「日本一人口の多い村」としてのキャッチフレーズで、全国にアピールを図ったこと、住民のアンケートでも高い数字を示していることから、も名称を「滝沢市」とすることが妥当と考える。更に、期間・経費・影響等を考慮してみても、最も相応しいものと考えます。

住居表示については、村内の住宅地域を見ると区画が整理されていないところも多くあり、市制移行と同時に実施することは困難であると思われる。この事業には、多くの財源・期間・担当職員を要することは理解できるが、早期実現をめざした専門部署を設置するなど速やかに調査研究を図り、住宅密集地を中心に住居表示が可能となるよう望むものである。今後さらに広く住民の声を聞きながら検討していくべきと考える。

大規模公共施設整備調査特別委員会中間報告書

調査日／平成24年5月8日(火) 5月11日(金)
6月5日(火) 6月19日(火)
7月6日(金) 9月5日(水) 9月12日(水)

調査事項／大規模な公共施設(仮称)滝沢村交流拠点複合施設・(仮称)滝沢中央小学校)等を整備するうえで、必要な事項を調査することについて

役員 経済産業部 商工観光課 教育委員会 教育総務課
宮城県美里町、大崎市

委員長 平野 哲子
信原 澄子
内藤 健二
相原 武藤
長副委員長 佐藤 高橋
委員 佐藤 育

産業雇用創造センターの整備基本構想の進捗

本村の地域農業の活性化と生産者の所得向上を目指して、産業雇用創造センターを「道の駅」的な位置づけとするのであれば、施設の配置に十分配慮し、出入りする車両による交通渋滞の緩和策を考慮すべきと考える。

また、複合施設との往来に配慮したレストラン(食堂)や、産業・観光物産の発信拠点としての機能を重視した施設整備計画等であるべきと考える。

生産者には、スーパーとの競合や本村の多くの直売所との関係など、経営上の多くの課題を解決する必要がある。

今後は、生産者及び出店者による運営協議会等の組織作りも大事になってくるが、リーダーとなる方は、自立経営をめざす観点から選任されることを期待したい。

行政は、生産者への営農指導・技術指導・情報提供など側面からサポートすべきと考える。特に、滝沢スイカなどの目玉商品である滝沢ブランドの強化や、値崩れの原因になる同一品種の同時期の出荷調整等を考えた事業展開をすべきと考える。

新設小学校の建設用地及び整備スケジュールの進捗

今後も児童数が増え続ける鶴飼小学校と滝沢小学校の過大規模校舎の解消を図るべく、新たな小学校を建設する経緯から、分離される学区・通学区域を含め、住民・PTAと十分なコンセンサスを得て、子供のために最優先に考えて計画していただきたいと考える。

建設予定地は、現状が農地で、岩手山が美しく見える環境良好な場所であるが、敷地に高低差があることと高速道路が近いこともあり、天候と風向きによっては騒音が心配される立地環境にあるため、これらを考慮した施設整備計画でありたい。

計画では、校舎を高台部分に建設して、グラウンドは底部に敷設し、敷地周りを進入路(通学路)としているが、村道室小路土沢線から学校までのアクセス道路の拡張と歩道の整備も同時に進行させるべきと考える。

また、周りの団地から校舎を見上げる位置関係となるので、段差のある用地の設計と校舎の設計には、岩手山の眺望を生かすよう、美観上からも細心の注意を図り、共通の設計思想をもって、それぞれが対処すべきと考える。

現在、基本計画の担当会社が決定しており、今後の校舎の設計スケジュール等を確認しながら、引き続き調査をしていくものである。